アクシス 壁・スリット工法 設計施工標準

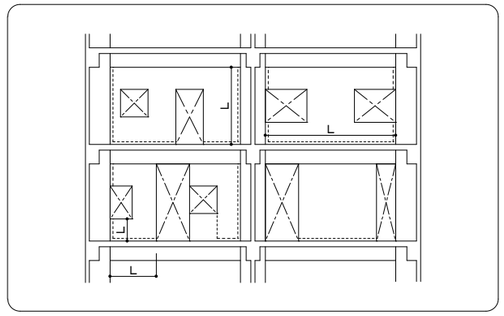
1．適用範囲・特記事項

・本仕様書は、鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造内、耐震スリット工事に適用する。
・本仕様書に特記無き事項は、設計図書、設計者及び係員の指示による。
　高位の耐火仕様については、設計図書、設計者及び係員の指示による。
　スリット材の施工については、設計者及び係員の承諾を得る事。

2．準拠する規基準

建築基準法・同施行令
2007年版建築物の構造関係技術基準解説書（日本建築センター）
鉄筋コンクリート構造計算基準・同解説（日本建築学会）
建築物の遮音性能基準と設計指針（日本建築学会）
建築工事標準仕様書・同解説　JASS5　鉄筋コンクリート工事（日本建築学会）
建築工事標準仕様書・同解説　JASS8　防水工事（日本建築学会）
構造スリット設計指針（日本建築構造技術者協会）
構造スリット施工管理マニュアル（建設業協会）

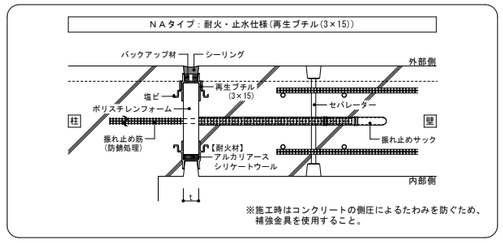
3．共通設計仕様



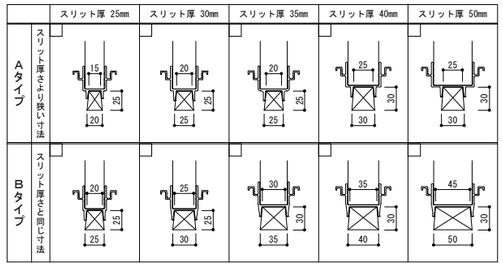
・破線部分等に壁スリットを用いる場合に適用する。
　各項目の□部分を■チェック、（　　）部分に仕様、数値を記入
・スリットの位置は設計図に明記（ □ 伏図　　□ 軸組図 ）
・厚さの決定　　：□ 層間変形角により決定
　　□ スリット必要長さ（L）の1／100
　　□ その他（　　）

4．鉛直完全スリット

■ Nスリット

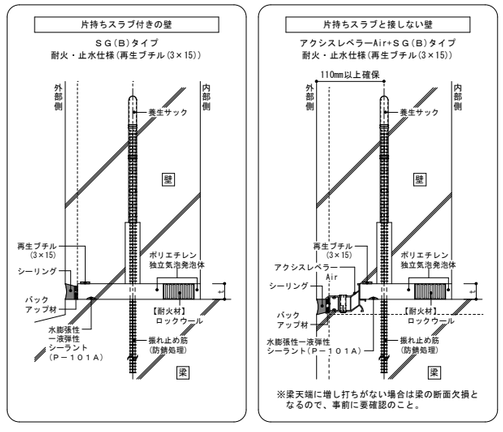


t	：	□ ２５　□ ３０　□ ３５　□ ４０　□ ５０
耐火材	：	■ 要
止水材	：	□ 再生ブチル(3×15)　□ 不要
遮音性能	：	同一条件下で製作したコンクリート壁のスリット有無による音響透過損失測定値の差は、2dB以下であることを確認した。
振れ止め筋（ L−５５０ ）	：	□ 振れ止めサック　（ □ Ｄ１０　□ Ｄ１３ ）
	：	□ 異形鉄筋　（ □ Ｄ１０　□ Ｄ１３　□（　　））
ピッチ	：	□ @４００　□ @（　　）
その他	：	□（　　）
推奨木製目地棒	：	□ Ａタイプ：スリット厚さより狭い寸法の目地棒
		□ Ｂタイプ：スリット厚さと同じ外部(底辺)寸法の目地棒



5．水平完全スリット

■ ＳＧスリット



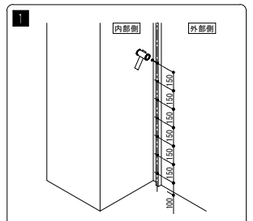
t	：	□ １５　□ ２０　□ ２５　□ ３０　□（　　）
耐火材	：	■ 要
止水材	：	□ 再生ブチル(3×15)　□ 不要
遮音性能	：	同一条件下で製作したコンクリート壁のスリット有無による音響透過損失測定値の差は、2dB以下であることを確認した。
段差打継ぎ埋め込み材	：	□ アクシスレベラー　□ ＭＴ　□ 不要
振れ止め筋（ L−５５０ ）	：	□ 養生サック　（ □ Ｄ１０　□ Ｄ１３ ）
	：	□ 異形鉄筋　（ □ Ｄ１０　□ Ｄ１３　□（　　））
ピッチ	：	□ @４００　□ @（　　）
その他	：	□（　　）

アクシス 壁・スリット工法 施工手順

1．鉛直完全スリット 施工手順

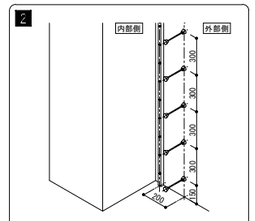
【Nスリット】ＮＡタイプの場合(補強金具使用)

1



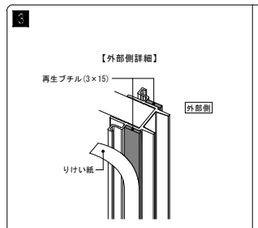
・長さ50mm以上(目地棒深さ25mmの場合)の丸釘で、下から100mm以内に1箇所、以降150mmピッチ以内で目地棒を固定する。

2

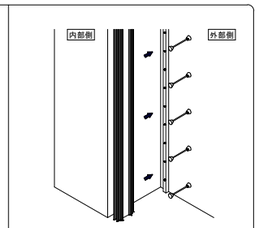


・スリット際のセパレーターは、目地棒中心より200mm以内の位置で、下から150mm以内に1箇所、以降300mmピッチ以内で設置する。

3

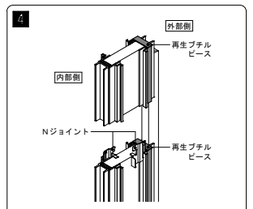


・再生ブチルの両側のりけい紙を剥がす。



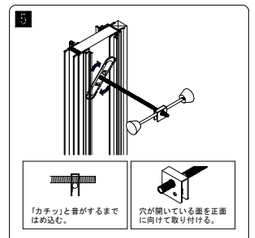
・再生ブチルが貼ってある方を外部側にして、固定した目地棒にスリットをはめ込む。

4



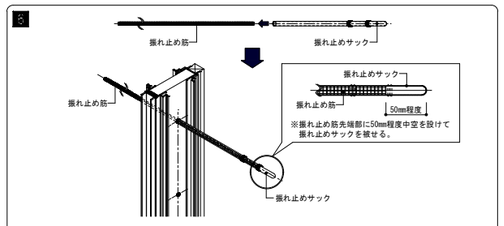
・外部側上端部とジョイント部に再生ブチルピースを貼り付ける。
・ジョイントする場合はNジョイントを塩ビの溝に対角線に差し込む。

5



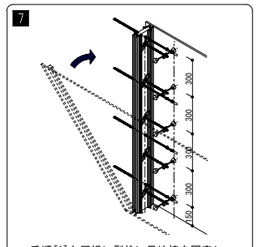
・セパレーターの位置に合わせ、補強金具をスリットの塩ビの溝に差し込み固定する。

6



・設計図書に指定された径の振れ止め筋に振れ止めサックを被せ、設計図書に指定されたピッチでスリットに差し込む。
・壁配筋等に結束線で固定する。

7

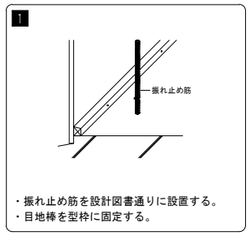


・手順[1]と同様に型枠に目地棒を固定し、返しの型枠を返す。

2．水平完全スリット 施工手順

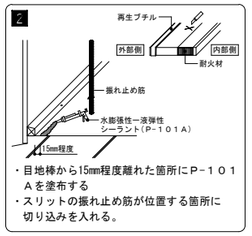
【ＳＧスリット】ＳＧ(B)タイプの場合

1



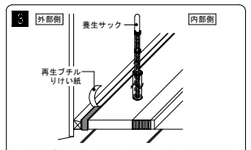
・振れ止め筋を設計図書通りに設置する。
・目地棒を型枠に固定する。

2



・目地棒から15mm程度離れた箇所にＰ－１０１Ａを塗布する
・スリットの振れ止め筋が位置する箇所に切り込みを入れる。

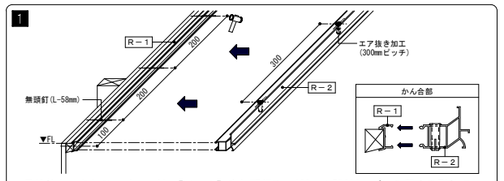
3



・再生ブチルが外部側になるように設置する。
・振れ止め筋に養生サックを被せる。
・再生ブチルのりけい紙を剥がす。
※ジョイントする場合は耐火材が連続するよう設置し、再生ブチルピースを貼り付ける。

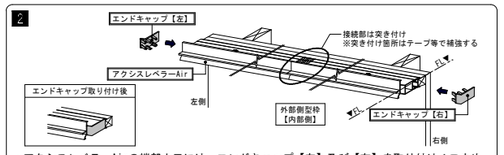
【ＳＧスリット】アクシスレベラーAir+ＳＧ(B)タイプの場合

1



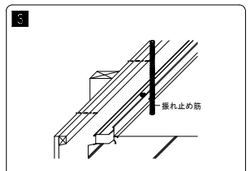
・目地棒とアクシスレベラーAir【Ｒ－１】を無頭釘で、100mm以降200mmピッチ程度で型枠に固定し、アクシスレベラーAir【Ｒ－１】に【Ｒ－２】を差し込む。
・振れ止め筋を設計図書通りに設置する。

2



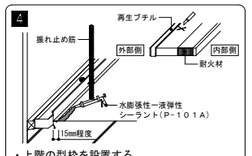
・アクシスレベラーAirの端部小口には、エンドキャップ【左】及び【右】を取り付けノ口止めとする。

3



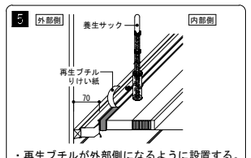
・コンクリートを打設し、型枠を解体する際に無頭釘と目地棒を外す。

4



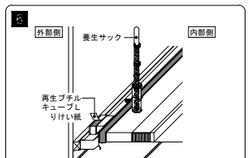
・上階の型枠を設置する。
・アクシスレベラーAirの水返しから15mm程度離れた箇所にＰ－１０１Ａを塗布する。
・スリットの振れ止め筋が位置する箇所に切り込みを入れる。

5



・再生ブチルが外部側になるように設置する。
・振れ止め筋に養生サックを被せる。
・再生ブチルのりけい紙を剥がす。
※ジョイントする場合は耐火材が連続するよう設置し、再生ブチルピースを貼り付ける。

6



・再生ブチルキューブLのりけい紙をすべて剥がし、鉛直スリットと取り合う箇所に再生ブチルキューブＬを設置する。

改訂		
	2014/08/-	vol.7：
	2015/03/10	vol.8:図枠作成
	2021/09/16	カタログVol.9改訂に伴う変更
	2025/04/01	カタログVol.9.2改訂に伴う変更

アクシス株式会社
〒166-0004　東京都杉並区阿佐谷南1-33-1　第二東都ビル2F
TEL：03(5377)7781 / FAX：03(5377)7782
http：//www.axis-slit.com
e-mail：slitmail@axis-slit.com

件名	DATE	図面No.
アクシス 壁・スリット工法	－／－／－	AN-1
図面名：設計施工標準図	SCALE：A3：1/1　担当：－	